

令和元年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 令和元年度の全体の回収率

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
生徒	96.3%	99.9%	98.3%	99.9%	99.4%
保護者	85.0%	96.9%	82.9%	87.0%	87.0%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	65.0	96.3	100	65.0	93.8	100	97.4	99.7	100	75.0	95.6
保護者	100	57.5	85.0	100	80.0	86.6	94.5	57.5	73.4	100	70.0	95.6

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、11年が経過しようとしている。上の表の平成27年度は全学年が8学級に揃った5年目の年度であり、今回の分析結果が現在の「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるとらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒914（男子325、女子589）、保護者786（男子生徒の保護者274、女子生徒の保護者512）である。

2 集計方法

設問内容については、8年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

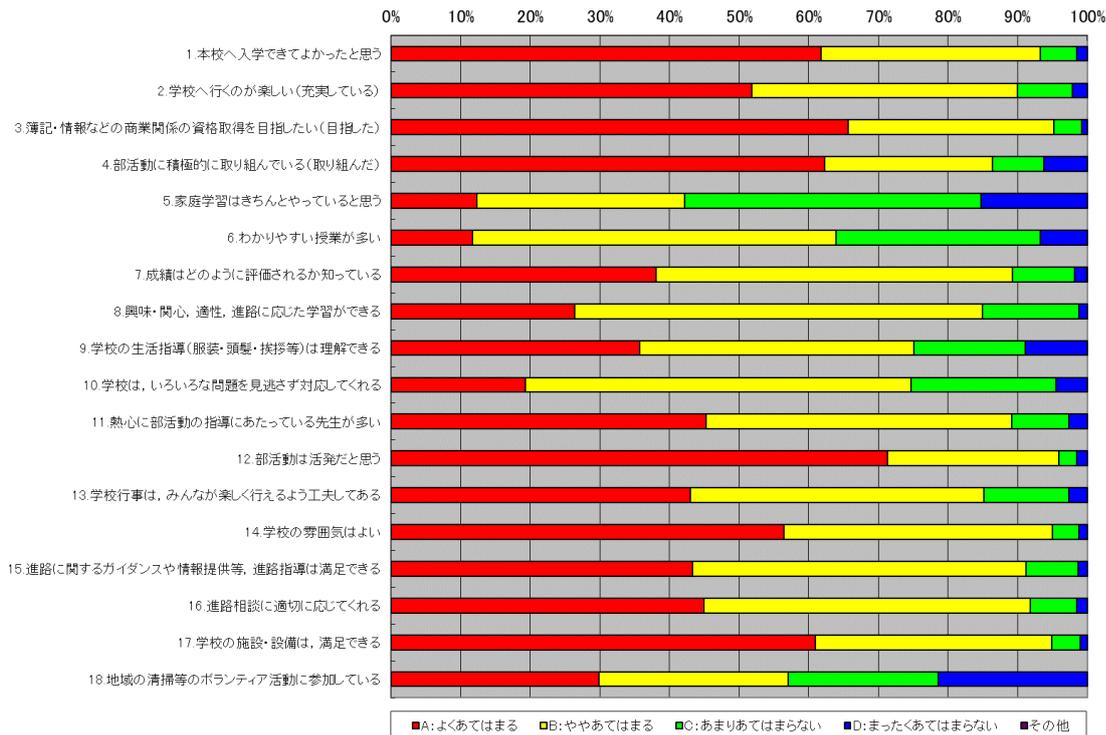
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別、学科別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校評議委員会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

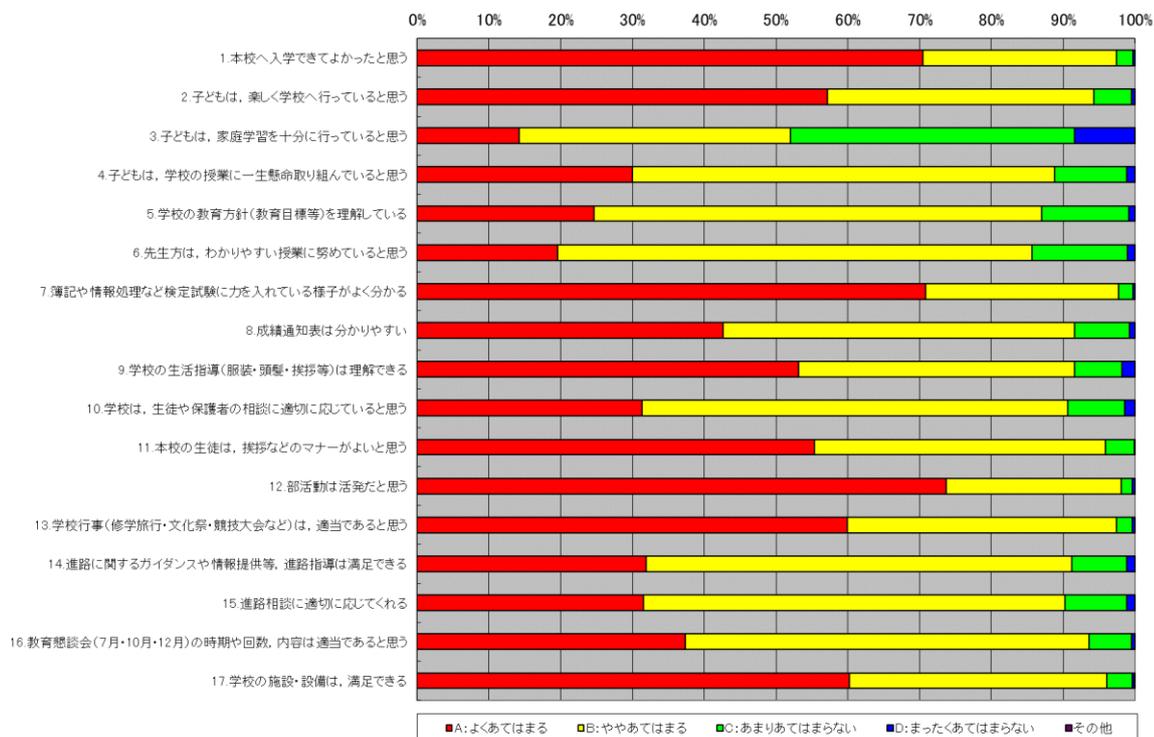
令和元年度 学校評価アンケート（生徒対象）



令和元年度 学校評価アンケート（保護者対象）

【集計結果】

集計の数字として用いている（ ）内の％は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計を使っている。割合が高い数字はアンケート項目中上位から、割合が低い数字はアンケート項目中下位から順に並べたものである。



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を一昨年度・昨年度のものと比較すると、一昨年は生徒・保護者とも「よくあてはまる」「ややあてはまる」がともに増加したが、昨年度はともに若干減少した。今年度はまたともに増加し好結果だったと言える。以上のことから本校の新しい教育がますます定着してきていることを物語っている。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では93%を超え、1年生全体が96.7%、2年生が89.4%、3年生が93.7%でどの学年も好ましい評価となっている。ほとんどの生徒が満足感を感じながら登校してきている。このことから、本校の地道な教育活動が効果的に行われてきた結果といえよう。

保護者からは昨年度同様97%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しては昨年度までと比較すると、幾分増加傾向が見られ、生徒は1年生が最も高く(92.0%)、3年生(90.1%)、2年生(87.8%)となっているが、保護者は学年に関係なく92%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。

2 目的意識

「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で95.2%(昨年度より1.6ポイント上昇)となった。内訳は、1年生が95.7%(昨年度より1.7ポイント上昇)、2年生が94.2%(昨年度より2.0ポイント下降)、3年生が95.7%(昨年度より5.3ポイント上昇)となった。学年間で差の出る結果となった。2年生は資格を取っておきたいという意識がまだ薄いようである。その反面、3年生は資格を取っておきたいという意識が強く現れているのでないかと推察される。「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で86.4%(昨年度より1.8ポイント上昇)となった。昨年からの下降傾向に歯止めがかかった。また、内訳は、1年生が91.1%、2年生が80.4%、3年生が88.1%となった。この項目でも学年間での差が出る結果となった。その中でも特に2年生女子の76.4%という数字は、一考を要する。

保護者において、「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で97.7%(昨年度より1.4上昇)となった。内訳は、1年生が98.9%(昨年度より2.9ポイント上昇)、2年生が96.1%(昨年度より1.0ポイント下降)、3年生が97.9%(昨年度より2.1ポイント上昇)となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。その中で、2年生は生徒・保護者とも同じような意識であることがわかった。

「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で98.1%(昨年度より0.1ポイント下降)となった。内訳は、1年生が98.6%(昨年度より0.3ポイント上昇)、2年生が96.9%(昨年度より1.2ポイント下降)、3年生が98.6%(昨年度より0.5ポイント上昇)となった。この項目も95%以上を超える結果となった。上記の二項目に関しては、生徒・保護者とも、『商業関係の資格取得を目指しながら部活動にも積極的に取り組む』という学校の方針を理解し、受けとめていると推察される。

多くの生徒が商業高校の特徴をよく理解し、学校生活に明確な目標を持っている。これは、今後入学してくる後輩に対して良い見本となると考える。しかしながら、後述するように部活動への取り組みについては、毎年のことながら、学年間や男女間で差が大きくなっているのが現状である。このことを踏まえ、生徒にとって充実した学校生活を送れるようどうすればよいのかを考え、そのうえで本校の教育活動の充実とさらなる創意工夫を重ねて実践していく必要がある。

3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 42.1%（昨年度から 6.1 ポイント上昇）となった。内訳は 1 年生が 56.7%、2 年生が 33.1%、3 年生が 37.6%（昨年度は 1 年生が 37.4%、2 年生が 34.3%、3 年生が 36.2%）となった。1 年生は、昨年度より 19.3 ポイントの大幅な上昇、3 年生は 1.4 ポイントの上昇となったが、2 年生は 1.2 ポイントの下降となった。「資格取得」および「部活動」と並んで 2 年生においてポイントの下降という同様の結果となった。このことを受けて、原因の分析と対策が急務ではないかと考える。

保護者において、「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 52.0%（昨年度より 2.7 ポイント上昇）となった。内訳は、1 年生が 52.0%、2 年生が 45.0%、3 年生が 55.7%（昨年度は 1 年生が 46.9%、2 年生が 47.4%、3 年生が 53.7%）となった。生徒と保護者の間にポイントの多少のひらきが見られたが、学年の分析傾向は同じようなものとなった。保護者からの目で見ると、1 年生の男子の 32.1%と 2 年生男子の 29.2%という結果は、学校側も注意すべきであり、何らかの対策が必要である。目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答を密接につなぎ、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であると同時に、学習習慣や基礎学力向上が必要である。そのためには、日々の授業や朝自習に対する姿勢が、学習の積み重ねが資格取得につながる。ひいてはこのことが、大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒に自覚させるとともに教員も教科で工夫を重ね、自己学習のできる生徒を家庭との協力をえて、指導していかなければならない。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 63.9%（昨年度より 0.7 ポイント下降）となった。1 年生 70.3%、2 年生 53.1%、3 年生 68.6%（昨年度は 62.3%、2 年生 66.4%、3 年生 65.1%）となった。1 年生は、昨年度より 8.0 ポイントの上昇、3 年生は 3.5 ポイントの上昇となったが、2 年生は 13.3 ポイントの大幅な下降となった。ここでも他の分析と同様の結果となった。2 学年は、昨年の 1 学年の時もこの項目については、ポイントが下降するという厳しいであった。いまだに歯止めがかからないのが現状である。2 学年になって、より学習が高度化していく中、授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。特に、数学や商業科目において、生徒が理解しにくくなっていることが予想されるので教員側が実態をよく理解し、授業の工夫や学習資料の充実をしていく必要があると考える。教員側も現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 85.6%（昨年度より 1.9 ポイント上昇）となった。1 年生

88.4%, 2年生 81.2%, 3年生 86.4% (昨年度は1年生 80.5%, 2年生 81.8%, 3年生 88.7%) となった。残念ながら、学年が進むにつれてポイントの下降となり、上記に示したように教員側の研鑽が必要となってきている。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 89.3% (昨年度より 0.8 ポイント下降) となった。学年別では1年生 87.0%, 2年生 88.1%, 3年生 92.7% (昨年度は 87.7%, 2年生 89.9%, 3年生 92.6%) となった。3 学年は、学習内容の把握と観点別評価において、考查結果だけでなく、日々の授業の積み重ねが評価につながっていることを生徒が実感したものと推察できる。1・2 学年は、年度初めの最初の授業において、教科担任がシラバスを使って、学習内容や評価方法を説明したものの、まだ十分に理解していない生徒もいると推察されるので、今後もさらなる学習の評価について、観点別評価を深化させ、定着を図りたい。

4 生活意識

生徒への質問項目の「本校へ入学できてよかったと思う」が 93.2% (前年度比+0.9 ポイント。以下, 前年度比), 「学校の雰囲気はよい」が 95.0%(+1.9)と高評価から、落ち着いた雰囲気生活していることがうかがえる。

しかしその一方で、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」が 89.9%(+4.2)と悪い数字ではないが上記の数値との差が気になるところだ。その理由が何なのかを考えてみることにする。

まず、部活動に関して、「部活動は活発だと思う」が 96.0%(-1.0), 「熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い」が 89.2%(+1.0)と高い数値である。

一方で、「部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)」が 86.4%(+1.8)。また、「学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある」は 85.1%(+3.9)となっていることから、十分な環境に慣れ過ぎて自らの「創意・工夫・積極性」に欠けているのではないかと考えられる。

また、「地域の清掃等のボランティア活動に参加している」が 57.0%(+20.7), 「学校の生活指導(服装・頭髪・挨拶等)は理解できる」75.1%(-8.5)と際立って低い【同様の質問に対して保護者は 91.6%(-2.0)と高評価を得ている】。このことから、周囲に対する配慮・関わり合い方の理解が不足しているように考えられる。辛辣な言い方をすれば、「自己中心的な見方」と言えるのではないか。

以上のことから本校生徒に総じて言えることは、与えられることに慣れておりそれが当たり前のように考えている生徒が多いということではないだろうか。積極的に【自ら考え、行動し、発信する】という姿勢に欠けていると考えられるので、今後は、委員会活動や部活動をはじめ、各 HR や授業等においても、受け身の姿勢から能動的かつ積極的に取り組める生徒を育てていくことを念頭に、指導していく必要があると考える。

その他で気になる点は、生徒への質問項目の「学校は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が 74.7%(+3.9), 同様に保護者への質問項目の「学校は、生徒や保護者の相談に適切に応じていると思う」90.6%(+1.9)という数値である。決して悪い数値ではないが、他の数値から比較すると低評価となっていることである。きめ細かで個々に合った迅速な対応が求められる昨今、学校全体としてそれに向けなお一層取り組んでいく必要性を感じる。

その他の項目では、「学校の施設・設備は、満足できる」94.9%(+0.4)とあり、今後も生徒とともに本校をより良いものにしていきたいと考える。

また、保護者の回答においては、すべてが 90%を超える高評価となった。このことは、保護

者の皆様方にご理解とご協力を頂きながら、本校教育活動が行われている証ととらえることが出来るのではないかと。今後とも、保護者の皆様方はもちろんのこと、地域住民の方々からの信頼に応えられる学校づくりに努めていきたいと考える。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒と保護者とも全項目90%に近い結果を示している。この結果は全項目と前年度と同様の調査結果となっているが、1年生の男子生徒の結果が80%になっていることが憂慮される。来年度の進路をする上で今年度何が不足していたのかを考えていかななくてはならない。

それ以外の今年度の調査結果については、3年生の進路達成状況、並びにこれまでの計画的な進路指導計画にもとづいた全教職員によるきめ細やかな進路指導の成果であると考えます。

昨年度より生徒と保護者の皆様と一緒に進路について考える機会になればと考え、保護者の皆様に進路ガイダンスへの参加案内をさせていただいたところ、平日開催にもかかわらず、1・2年生合わせて35%を超える保護者の方に参加いただいております。進路行事への参加も積極的である。

今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための具体的な指導に取り組んでいきたい。進路ガイダンスや進路情報の的確な提示、そして、生徒の興味、関心を踏まえ、生徒自身の職業適性を把握しながら自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え、行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

生徒の回答の中で男女間で最も大きな開きが見られた項目は、昨年度と同様に「ボランティア活動に参加している」で男子47.8%、女子29.3%であった。その原因としては従来から指摘した通り本校は地域の清掃活動等に運動部が積極的に参加しているため、運動部への加入率の差が反映されたものと思われる。ボランティア活動を推進することは、本校の重点目標の一つでもあることから、今後も女子生徒を中心にボランティア活動の意義を周知させて参加を促していかなければならないだろう。また、ボランティア活動へ参加している割合が全般的に低下し、特に1年生での男女ともに3割以下（男子29.1% 女子22.6%）となっている点についても今後注意していかなければならないであろう。

保護者の回答の中では、これも昨年度同様「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」であったが今年度は男子38.4%、女子55.9%で男女間の差は17.5%で、これは昨年度（17.5%）と同じである。学年ごとに見ると1・2年生での男子（1年31.4% 2年31.6%）女子（1年54.7% 2年57.1%）では昨年度と同じく20%を超える格差が見られたが、3年生では男女ともに大幅な上昇（男子50.4% 女子56.0%）が見られ、格差も縮小している。この項目については、男女間のみならず保護者・生徒のアンケート結果にも大きな差が見られ、何をもって家庭学習とみなすかについて大きな認識のずれが存在することが伺われる。この差異の理由については不明であるが、今後の指導上留意すべきだと思われる。

7 その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒（94.9%）・保護者（96.1%）とも90%を超えている。本校の施設設備は、公立高校としては全国でも有数なものであり、それらが有効に活用されていることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。現校舎も建設から来年度で22年目を迎えるが、今後も生徒が「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的なご意見やご要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、さらに充実した学校生活の構築に向け、教職員一同努力してまいりたい。今後も本校の更なる発展のために、忌憚のないご意見をいただきたい。